

武術空手交流大会 競技規定

■試合時間

- ・本戦 2分
- ・延長戦 1分

延長戦が引き分けの場合

以下の順で勝敗を判定する。

1. 体格判定

身長+体重の合計に20以上の差がある場合、数値が低い選手を勝者とする。

2. 年齢判定

年齢差が5歳以上ある場合、年上の選手を勝者とする。

※30歳以上の選手のみ適用

それでも決しない場合、再延長戦（1分）を行う。

再延長戦はマスト判定とし、必ず勝敗を決する。

【有効技】

以下の技を有効とする。

- ・フルコンタクト空手ルールで認められている技すべて
- ・顔面・金的・背中への寸止め打撃
- ・3秒以内の掴み
- ・投げ技
 - ※同体での投げは禁止
 - ※投げた後、スタンディング状態を維持していること
- ・腕・脚・首への掛け
- ・前腕を使った首への接触（※打撃は禁止）
- ・手による押し
- ・体当たり

【技ありの判定】

以下の場合、「技あり」と判定する。

- ・打撃により相手の動きが一時的に止まった場合
- ・相手の両足が完全に場外へ出た場合
- ・顔面・金的・背中への寸止め打撃に対し、相手が3秒以上反応を示さなかった場合

【一本の判定】

以下の場合、「一本」と判定する。

- ・打撃により相手が3秒以上ダウンした場合
- ・「技あり」を2回取得した場合

【勝敗の判定基準】

一本が成立しなかった場合、以下の順で勝敗を決定する。

1. 技ありを取得している選手
2. 双方に技ありがある、または無い場合は反則の少ない選手
3. 反則数が同じ、または双方に反則が無い場合は有効打の多い選手
4. 上記すべてが同じ場合は引き分け → 延長戦

延長戦でも引き分けの場合、以下を適用する。

- ・体格判定
- ・体格判定で差が出ない場合は年齢判定
※年齢差5歳以上、30歳以上の選手のみ適用
- ・それでも決しない場合は再延長戦（マスト判定）

【反則と減点】

※注意 1 → 注意 2 → 減点 1 → 減点 2 で失格

※減点 1 は「相手に技あり」とする

■打撃に関する反則

- ・首から上への、足技以外の直接打撃
- ・金的・背中・膝関節（正面）への直接打撃

接触の度合いによる処置

- ・軽度の接触 → 口頭注意
- ・中程度の接触 → 注意 1
- ・強度の接触 → 減点 1、または即失格

■即失格となる行為

- ・掴み、または掛けからの上段膝蹴り（※中段膝蹴りは可）
- ・故意の同体での投げ
- ・関節技、締め技
- ・持ち上げて落とす技
（例：バックドロップ、パワーボム等）
- ・髪や耳を掴む行為
- ・道着、防具の規定違反
- ・試合開始時刻に間に合わない場合
- ・審判の指示に従わない場合

※本規定に記載のない事態が発生した場合、必要に応じて協議を行い、審判が最終判断を下す。

※協議結果および試合結果に対する異議申し立ては、一切認めない。